

両国まちあるき瓦版基伍

～ぐりり、めぐりり、ごくり、きらり、びっくり、やはり、りようごく～

— ★日本相撲協会 100周年、国技館両国復帰40周年！

今年は、両国の街には欠かすことのできない相撲文化を担っている日本相撲協会の財団法人設立100周年、国技館が蔵前から両国に復帰して40周年のメモリアルイヤーです。12月には記念式典（関係者のみ）が予定されています。そこで今回は、国技館などの変遷についてご紹介します。

1_回向院 勸進相撲時代

1768年…



江戸時代は主として公共社会事業の資金集めのための勸進相撲の形態をとっていた。その中心が回向院だったと言われている。

2_回向院 興行相撲時代

1833年…



天保4年（1833年）からは、回向院が春秋二回興行の定場所になった。

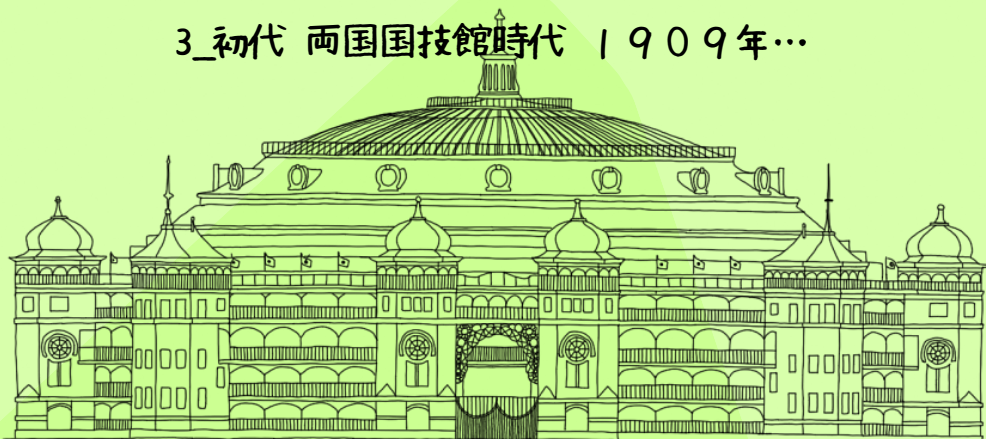
明治42年（1909年）に国技館が完成するまでの76年間“回向院相撲の時代”が続いた。



“方塚の碑”は、回向院境内にある相撲協会が歴代相撲年寄の慰霊のために昭和11年（1936年）に建立された。

現在では、新弟子たちが力を授かるよう祈願する碑として親しまれているなど、相撲とのつながりは、今なお続いている。

3_初代 両国国技館時代 1909年…



大相撲初の屋内常設会場として両国に完成。東京駅などを手がけたことで有名な辰野金吾とその教え子である葛西萬司の設計で、ドーム型の天井を鉄の骨組みで支える構造で“大鉄傘”という愛称で親しまれた。しかし、完成からわずか8年後に火災で消失して再建。その後も、震災や戦災に見舞われた。

昭和19年（1944年）1月の春場所を最後に、大日本帝国陸軍が使用し、戦後も、GHQに接収された。昭和21年（1946年）“メモリアルホール”として改装後に、こけら落としとして行われた大相撲秋場所と第35代横綱双葉山引退披露が最後の相撲興行となった。その後も“国際スタジアム”“日大講堂”として使われ、昭和57年（1982年）に解体された。

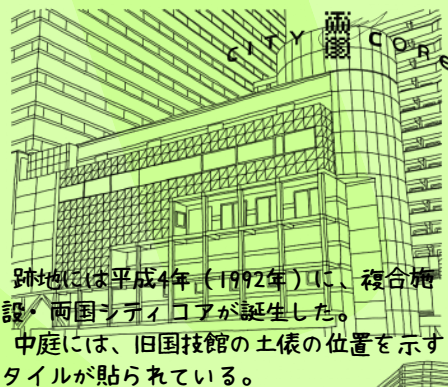
4_蔵前国技館時代

1954年…



工事中の昭和25年（1950年）、仮設のうちに開館し、その4年後に正式に完成。昭和27年（1952年）には、享保年間から250年にあたって続いていた“四本柱”が撤廃され、吊り天井に4色の房がぶら下がるようになった。設計は、辰野金吾の愛弟子である田中実によるもの。

老朽化により昭和59年（1984年）9月場所千秋楽を最後に閉館。

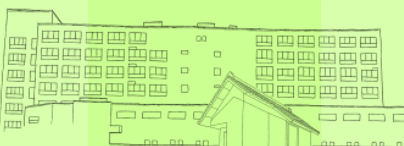


跡地には平成4年（1992年）に、複合施設・両国シティコアが誕生した。

中庭には、旧国技館の土俵の位置を示すタイルが貼られている。

5_二代目 両国国技館時代

1985年…



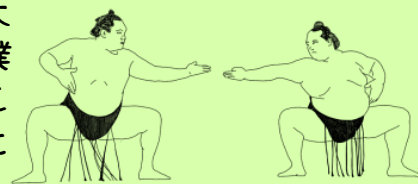
跡地には、東京都下水道局北部下水事務所と見学施設“蔵前水の館”が建設された。館内には、国技館に関する展示あり（現在休館中）。

39年ぶりに両国に復帰。正式名称は“国技館”。設計は、杉山隆設計事務所と鹿島建設（株）。相撲のほか、さまざまなイベントにも利用されている。近年では、相撲好きで知られるポール・マッカートニーの来日公演や、eスポーツの国際大会にも使用された。

併設の相撲博物館では現在、特別展“第73代横綱照ノ富士”、日本相撲協会100周年記念“古式大相撲の世界”開催中（東京場所中などは観覧券が必要）。

★古式大相撲が行われます！（10/7）

国技館で日本相撲協会財団法人設立100周年記念“百周年場所—古式大相撲と現代大相撲—”が開催されます。平安時代の宮中で行われた相撲節会（すまいのせちえ）に則った30年ぶりの古式大相撲は、“振鉾（えんぶ）”に始まり、3組6名の“童相撲（わらわすまい）”、幕内力士による“古式大相撲取組10番”と続き“舞楽”で締められます。



★34年ぶりの大相撲ロンドン公演！（10/15-19）



10月15日から19日まで、英国ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールにて“大相撲ロンドン公演”が開催されます。実に1991年以来34年ぶりの開催です。幕内力士が参加する取組のほか、神聖な儀式や相撲の歴史的・文化的価値が英国国内に紹介され、日本の豊かな伝統と精神性を体感できる内容になっています。

★丹精込めた和菓子を手作りで！

“手作り”と“素材”にこだわった昭和23年創業の和菓子店です。熟練の二代目とあえて洋菓子店で経験を積んだ三代目が、その年ごとの出来で選び抜いた十勝産の最高級小豆を使い紡ぎ出す逸品です。生クリームをコーヒー飴で包んだ“カフェオレ大福”や夏季限定の“ラムネ味”、その他にも、元徳稲荷のお膝元であることにちなんだ“元徳餅”など品揃えも豊富です。緑二丁目に支店もあります。

（御菓子司 みすゞ 墨田区立川3-1-11）



★実は美人画の名手でした！



すみだ北斎美術館で特別展“北斎をめぐる美人画の系譜—名手たちとの共演—”が開催されています。実は美人画の名手としての顔も持っていた葛飾北斎のルーツと、その画風の変遷を同時代の浮世絵における名手たちの作品とともに、その魅力と美人画の分野における立ち位置が明らかになるかもしれません。（11月24日まで）

★手元から30cmで感じる職人の技！（9/18-21）

9月18日から21日まで、すみだ北斎美術館“MARUGEN100（講座室）”で“令和7年度 大江戸すみだ職人展”が開催されます。“大江戸”職人の技を間近で“見て・聞いて・触れる”ことによって江戸時代から現代へと続く“職人文化”を身近に感じていただけるよう複数の実演ブースを設置して“職人衆による製作実演”が行われます。そのほか、製作方法や作品の説明を受けながらの“工芸体験”や“対面販売”も予定されています。ここ北斎美術館で江戸の“粋”を感じてみませんか。（全日とも、午前10時から午後4時30分まで）



☆紙面で紹介した具体的な場所などについては、お得な特典付“両国にぎわいMAP”を参照してください。印刷したMAPは、両国観光案内所などで配布しています。

☆墨田区観光協会では、両国をはじめとする“本物が生きる街すみだ”について、地元ガイドによる“まち歩きガイドツアー”を実施しています。



あなたのアイデアが展示されるかも？
小中高生向け“あたしのえどはく”
展覧会アイデアコンクール実施中！

エドハク
リニューアルオープンまで、
あと、6か月 くらい

■両国まちあるき 瓦版_其の伍（Vol.5_2025.9）

☆その他の両国まちあるき情報やバックナンバーなどは、こちらに掲載しています↓

■発行・問合せ：墨田区産業観光部観光課

KANKOU@city.sumida.lg.jp / 03-5608-6500

■協力：墨田区観光協会/両国協力会/墨田区銘品名店会

